

はじめに

このたび、2008年度(平成20年度)札幌市衛生研究所年報をまとめました。

2008年度を振り返りますと、2007年度に続き「食の安全・安心」に関わる問題が見られました。2009年1月に市内小学校で、マグロ魚肉による大規模なヒスタミン食中毒が発生し、児童、教職員合わせて279人に症状を認めました。再発防止対策会議が開催され問題点が関係部署により総合的に検討されましたが、流通・調理過程での原因は特定できませんでした。当衛生研究所では、食材の迅速な検査を行うとともに、ヒスタミン産生菌とマグロ魚肉を用いて、温度条件と時間経過による細菌の増殖とヒスタミン産生について再現実験を行い、有用な知見を得ております。

また、2008/2009シーズンに、当衛生研究所で分離したインフルエンザAソ連型ウイルス173株中79株のタミフル耐性について調査を行ったところ、全てタミフル耐性株であり、全国の動向と一致する結果となりました。

環境問題としては、2008年7月末に市内住民から、屋外からの臭気により化学物質過敏症様症状を呈しているとの相談があり、当衛生研究所では、室内空気のホルムアルデヒド、土壌等の重金属や農薬等の広範囲の検査を行いましたが、原因は特定できませんでした。この事例を契機に、当所を含む複数の関係部局による「札幌市化学物質等対策連絡調整会議」が設置され、各部局の連携を密にしていくこととなりました。

また、2008年度からは、外部の有識者を含む構成の倫理審査委員会による、倫理審査を開始しました。これは、ヒトを対象とする調査研究の適正性を審査するもので、新生児の先天代謝異常症等のマス・スクリーニング等、ヒト由来の検体を用いる調査研究について審査していただいているものです。

また、2008年11～12月には、JICA関連業務として、「中東地域新生児マス・スクリーニング確立支援」コースに、モロッコから4名、パレスチナから2名が参加して4週間にわたる研修を行い、国際貢献を継続しております。

2008年度は、日本公衆衛生協会の地域保健総合推進事業「妊婦及び乳幼児の効果的なたばこ対策に関する研究」に、事業協力者として参加し、受動喫煙・喫煙防止啓発用DVD「パパ、ママ、タバコやめて！」を製作しました。現在、このDVDが保健センターでの妊婦等の啓発に用いられており、今後広く活用されることを願っております。

さらに、市民向け広報誌「ぱぶりっくへるす No.30」の発行及び、小学生を対象とした実験教室を実施し、衛研ホームページとともに市民への情報提供を積極的に行っております。

当衛生研究所が札幌市の保健衛生・環境保全行政の科学的・技術的中核機関として機能していくために、全国の地方衛生研究所とのネットワークの重要性を強く感じております。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2009年9月

札幌市衛生研究所
矢野 公一